

令和3年 横浜市陶芸センター 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		令和3年度計画		実施状況		評価	
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 陶芸の普及と市民の作陶技術向上の支援	◆体験型教室の開催 ・一日体験教室(電動ロクロ)	●一日体験教室の開催 □一日電動ロクロ体験開催数 □目標利用者数	14回/年 140人	14回/年 189人	初めの方も本格的な陶芸を気楽に楽しめる電動ロクロ陶芸体験。毎回技法とテーマを変えて開催	【成果】 ・新型コロナウイルス感染症の影響の中で、可能な限り陶芸の普及と市民の作陶技術支援を行いました。感染症対策を行いながら、より多くの市民に陶芸を楽しんで頂ける体験講座を実施しました。早めの計画の練り直しにより、開催した講座は安定した受講申込がありました。一日体験教室・親子陶芸教室は目標を上回る実績となりました。 ・一日陶芸体験教室は、毎回受付初日で満員の申込がありました。10代～70代と幅広い年齢層の受講と、年間を通して96%と高い利用率を得ることができました。毎回テーマ、技法を変え、講師を増員し丁寧な対応と指導の講座を実施しました。そのため再受講の利用(全体の24%)もありました。作品の返却を待ち望む声も多く、作品引き取り開始日からすぐに引き取り来館があり、未引き取り作品がほぼ無くなりました。講座内容(技法・テーマ・指導方法)を充実できたことが、再受講や利用者の満足度向上に繋がったと思われます。また、一日陶芸体験受講後、自由作陶教室の新規受講にも繋がりました。 ・親子陶芸教室においても95%の利用率となりました。未就学児にも制作しやすい技法を取り入れました。昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止していたため、開催を待ち望んでいたという受講者の声も頂き、親子で夏休みにのびのびと作陶を楽しんでいる様子が多く見られました。 ・自由作陶教室は部屋を2カ所に分散し(感染症対策)、安心して利用できる環境を整え、年間を通して76%と安定した利用がありました。60代・70代の利用が多く、施設で作陶する事を生きがいに毎回楽しみに来ている、という声もありました。コロナ禍の中、地域の人々の生活の一助となれたことは、スタッフの励みになりました。今後も運営の努力を継続していきたいと思います。 ・自主事業の申込についてはホームページ、知人・家族、利用者の紹介(口コミ)、公園内立て看板が90%以上を占め、通常の運営の努力が少しずつ表れてきたと思われます。 ・次世代育成の取り組みとして、陶芸資料作成・配布を行いました。夏休みの宿題に利用される児童や、指導者(指導者研修講座受講者)が各学校で使用する授業の参考に活用されました。 【課題】 ・新型コロナウイルス感染症の終息後も、陶芸に関心を持ってもらえるように、今後も講座内容の充実・工夫を継続していきます。新規申込の方が継続して作陶を楽しめるような講座体制、入門講座の充実を計ります。 ・20代の利用率が低いと、若い世代に興味関心が得られる広報や周知が課題となっています。 ・働く世代、子供達は土曜日、日曜日(祝日)の利用申込が多く、施設スペースの限りもあり、受け入れが難しいケースが発生しています。スペース確保と効率の良い講座スケジュールの組み方を今後も検討します。	【評価できる点】 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を取りながら、計画どおりに事業を継続し、施設運営を行ったことを評価します。 ・幅広い年齢を受け入れられるようメニューに工夫を凝らし、リピーターを獲得するなど、利用者目線に立った企画立案がなされていることが伺えます。 【更なる取組を期待する点】 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多くの事業等が中止となりましたが、いずれも陶芸センターの特徴的な取組であり非常に残念だと感じています。令和4年度以降に再び再開されることを期待しています。 ・令和2年度の利用者減から急激な回復が見られていますが、施設の活性化のため、幅広い世代の方々に施設を「認知」、「利用」、「継続」となってもらう取組を期待します。 ・より効果的な広報・プロモーション手法の検討・実施、三溪園や本牧市民公園の利用者など、新たな層の市民の方が施設を知り、陶芸に興味を持つことにつながる効果的なアプローチを検討してください。
	・一日体験教室(手びねり)	●一日体験教室の開催 □一日手びねり体験開催数 □目標利用者数	14回/年 140人	14回/年 189人	初めの方も本格的な陶芸を気楽に楽しめる手びねり陶芸体験。毎回技法とテーマを変えて開催		
	・親子陶芸教室	●親子陶芸教室の開催 □開催数 □目標利用者数	4日/年 96人	4日/年 106人	夏休みに親子で一緒にカレー皿とカップを作成		
	・陶芸祭体験教室	●陶芸祭手びねり体験、ロクロ体験、楽焼の各教室開催 □開催回数 □目標利用者数	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	-		
	◆基礎型教室の開催 ・手びねり初級・中級	●手びねり初級教室の開催 □開催数 □目標利用者数 ●手びねり中級教室の開催 □開催数 □目標利用者数	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	-		
	・電動ロクロ初級・中級	●電動ロクロ初級教室の開催 □開催数 □目標利用者数 ●電動ロクロ中級教室の開催 □開催数 □目標利用者数	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	-		
	◆自律型教室の開催 ・自由作陶教室	●自由作陶教室の開催 □開催日数 □目標利用者数	337日 7,414人	337日 6,715人	自由に作品を制作する。3密回避のため教室を2ヶ所に分散して開催。		
	・第2自由作陶教室	●第2自由作陶教室の開催 □開催日数 □目標利用者数	49日 686人	49日 678人	自由に作品を制作する。3密回避のため教室を2ヶ所に分散して開催。		
	・陶芸祭での事前予約なしの体験の場の提供	□予約無しでの陶芸体験	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	-		
	・各種媒体を使った広報	■広報よこはま・陶芸関連書籍、フェイスブック、ヨコハマアートナビ、公園内に看板掲示による情報発信	実施	実施	神奈川新聞、情報誌(ぱど)、フェイスブック、ホームページ、ヨコハマアートナビ、マガルドット・ネット、公園内看板掲示による情報発信実施。		
	・在留外国人向けの英語のチラシ作成	■一日体験・自由作陶教室・貸室について海外からの来訪者向けに英語版のチラシを掲示する。	実施	未実施	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止		
	・障がい者の方、ハンディキャップのある方の参加しやすい環境改修の提案	■教室内の動線を確保するため、整理整頓を心がける。教室通路内の段差の解消。	実施	実施	袖掛け場、自由作陶教室、講座室、貸室のレイアウト変更。段差箇所の通行止め(通路変更)		
	・映像による紹介	■映像によるロクロ技法や施釉技法などの紹介	実施	実施	講座教室内テレビ画面で放映、ホームページ動画による放映		
	◆次世代育成の取組 ・陶芸解説資料や映像による興味喚起	●作陶活動への興味を喚起 ■親子陶芸教室と一日体験教室受講者を対象に、焼き物に関する解説と資料の配布など、次世代の育成に取り組む。	実施	実施	親子陶芸教室「日本の焼き物の歴史」、一日陶芸体験教室「日本の伝統釉薬」、指導者研修講座「焼成方法・陶芸窯機能点検・釉薬調整方法・作陶のコツ」資料を作成、受講者へ配布		
	・映像による紹介	■一日体験講座の開始までの待ち時間において、解説動画映像を上映する。	実施	実施	一日陶芸体験教室開始までの待ち時間において、上映		

令和3年 横浜市陶芸センター 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

2 市民の主体的な作陶活動の支援	◆専門技能習得講座として、多くのテーマの講座を企画・実施 ・電動ロクロ水挽き徹底教室 ・絵付け教室 ・特定のやきもの教室(チャレンジ講座) ・週末2日間陶芸講座 ・週末3日間陶芸講座 ・陶芸入門5日間講座 ・還元焼成講座 ・大物焼成講座 ・三溪園共催企画 ・楽焼成講座、サヤ鉢焼成講座等 ・招待作家講座 ・穴窯焼成講座	●専門技能習得講座の開催 □電動ロクロ水挽き徹底教室	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	-		【成果】 ・大物焼成講座は年間を通して、安定した利用がありました。コロナ禍において、集中して大作(大壺、大皿、オブジェ等)に挑む方が多い年でした。無事に制作が終えるように、作品管理・指導等に取り組みました。 【課題】 ・還元焼成講座と、全国陶芸産地の粘土「萩土」「信楽透光土」を期間限定で開催しました。伝統的な陶芸の普及に努めましたが、令和2年度と内容が同じ土のため、目標を下回る利用となりました。来年度に向けて新たな土や釉薬の企画を立て、利用者の制作意欲向上の支援に努めたいと思います。	
		□目標利用者数						
		□絵付け教室	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	-			
		□目標利用者数						
		□チャレンジ講座	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	-			
		□目標利用者数						
		■還元焼成講座の随時開催	実施	実施	-	焼成方法(酸化焼成・還元焼成)による作品の色の変化を楽しむ。		
		□目標利用者数	700人	419人	C			
		□大物焼成講座の開催	2名/月	2名/月	B	350mm×400mm×450mmの大きさ作成		
		□目標利用者数	24人	23人	B			
		○□三溪園共催講座	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	-			
		□目標利用者数						
		□絵付け焼成、サヤ鉢焼成、楽焼成等の開催	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	-			
		●□招待作家(外部)による特別上級講座1回(年間)	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	-			
□目標利用者数								
□穴窯焼成講座の開催	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	-					
□目標利用者数								
2	◆作陶活動の成果発表の場の提供 ・陶芸祭での作陶展、ホームページで実施するネット特別賞、「全国公募・アマチュア陶芸展」による全国規模の作品発表の場の提供	□陶芸祭時に作陶展を年1回開催 全国公募・横浜アマチュア陶芸展開催 ※「全国公募・アマチュア陶芸展」は隔年開催	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	-			
		□目標利用者数						
		3	◆ページで実施するネット特別賞	■ホームページ上でのネット特別賞発表「アマチュア陶芸展開催時」	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	-	
		□目標利用者数						
4	◆(指定期間5年間において)新講座、実験的講座の開講	■自由教室・貸室利用者を対象に全国陶芸産地の釉薬、粘土、を期間限定利用開催	実施	実施	-	「萩土」、「信楽透光土」期間限定利用開催。		
		□目標利用者数	350人	130人	C			
		■講師・アドバイザーの推奨するチャレンジ講座の開講	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	-			
		□目標利用者数						
3 市内の公益的作陶活動に対する支援	◆陶芸指導者対象の研修講座の開催 ◆公益的作陶活動に対する情報提供や相談対応等、陶芸知識の発信による基地化 ◆団体教室・出張教室の対応等、陶芸知識の発信による基地化	●陶芸指導者研修講座 □開催数	1回/年	1回/年	B	講義編と実技編を開催。市内小中学校・特別支援学校より参加。		
		□目標利用者数	22人	26人	A			
		■小中高校・特別支援学校・養護学校に対して、作陶活動に必要な情報や質問に対応し、研修や電話相談での陶芸知識発信に努める	実施	実施	-	市内、県外在住の方から陶芸材料、成形技法、陶芸窯、電動ロクロ修理等、電話・メールでの相談対応		
		●公益的な作陶活動への情報発信	実施	実施	-	指導者研修講座DM発送514通		
		□学童保育へのDM発送	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	-			
		●陶芸知識の基地化 ■団体・出張教室での対応の難しいケース(作品の種類・重量・既存の電気炉の有無・経費)は、陶芸センターで講座受入が可能か判断し、積極的に対応する	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	-			
		●団体教室の開催 □開催数	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	-			
		□目標利用者数						
		□目標利用者数						
					【成果】 ・指導者研修講座は目標を上回る実績となりました。これまで開催していた内容をよりブラッシュアップし、小中高校の実際の授業にも応用が利くように、講座内容の充実を計りました。事前アンケート調査、講座終了後も技法や道具の使い方、焼成について電話相談等対応し、陶芸知識の発信に努めました。 ・年間を通して陶芸に関する様々な質問(釉薬の処理の方法、焼成、粘土、成形について)電話対応等により、作陶活動支援を行いました。 【課題】 ・小中高等学校、特別支援学校、市内の陶芸設備のある施設において、陶芸担当者不足等による指導者研修講座の需要が高まっています。指導者研修講座の開催数・受け入れ人数増加の検討等、今後も様々な支援に取り組んでいきたいと思っています。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催できなかった学童・一般対象の団体教室等の周知が課題となっています。			

令和3年 横浜市陶芸センター 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

4 陶芸と市民及び来街者を結びつける場づくり	1	◆施設の象徴としての登り窯の活用	■見学用として活用するほか、公園内におけるパネル掲出場所として活用	実施	実施	-	登り窯の構造断面図を掲示。	【成果】 ・近隣地域の陶芸教室、陶芸設備のある市内公共施設より、様々な陶芸に関する質問、講師紹介依頼等に対応しました。 ・神奈川新聞、地域情報誌、フェイスブック、ホームページ等、様々な媒体により情報発信に努めました。 ・一般見学者に対し、チラシの配布や対面な対応を心がけ、一日体験や親子陶芸教室受講にも繋がりました。 【課題】 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した陶芸祭を、コロナ終息後は、新たな陶芸祭の展開、周知が課題です。
			■象徴的扱いとし、印刷物等で写真を使い紹介	実施	実施	-	フェイスブック、ホームページ等で紹介。	
	2	◆(指定期間5年間に)近隣地域と連携した取組を行うための企画検討。	■近隣地域との連携	実施	実施	-	近隣陶芸教室、市内公共施設施設、三渓園より陶芸講師紹介依頼に対応。三渓園「茶道具市」に協力	
			■陶芸祭での三渓園・本牧市民公園・地域町内会との連携	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	-		
	3	◆陶芸祭で、初めて陶芸にふれる来場者のための企画実施。	■陶芸祭来場者への対応	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	-		
			■予約無しでの陶芸体験の実施	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	-		
			■お茶会・バザー・作品展示会での興味の喚起	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	-		
	4	◆施設利用促進のための広報・宣伝活動、ホームページや紙媒体の制作の充実	■ホームページ、SNSを活用して作陶講座等の情報を発信する。	実施	実施	-	フェイスブックにて施設の案内、体験教室の様子紹介等を掲載	
			■すべての講座募集チラシの作成、配布	実施	実施	-	一日陶芸体験教室、親子陶芸体験教室、指導者研修講座チラシ作成	
			■陶芸祭チラシの作成、配布	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	-		
			■紙媒体への記事掲載の推進	実施	実施	-	神奈川新聞、情報誌「ぼど」掲載	
			■ホームページの講座案内年度切り替え	実施	実施	-	年度切り替え実施とウェブアクセシビリティ試験結果掲載	
			□ホームページの最新情報の更新	1回以上/月	1回以上/月	B	月1回以上の更新	
	5	◆一般見学者へ質問対応や、陶芸ライブラリー、映像等による詳細な情報、電話やホームページ等を通じての相談等の情報発信。	■利用者に支障のない一般見学者の受入	実施	実施	-	一般見学者数 920人	
			■電話・ホームページでの陶芸に関する質問への対応	実施	実施	-	市内、県外在住の方から陶芸材料、成形技法、陶芸窯、電動ロクロ修理等、相談対応	
5 陶芸センターに関する情報提供及び広報・プロモーション	1	◆Webサイトによる施設案内	■WEBサイトの活用	実施	実施	-		
			■ホームページ上のギャラリーの充実	実施	実施	-		
	2	◆陶芸関係のサイト等を活用した広報	■陶芸関係WEBサイトの活用	実施	実施	-		
			■無料の全国規模の習い事サイトなどへの情報提供	実施	実施	-	ぼどWEB版、マガルドット・ネットWEB版、ヨコハマアートナビ等掲載	
	3	◆(指定期間6年間に)陶芸センターの知名度アップ	■陶芸祭・「全国公募・横浜アマチュア陶芸陶芸フェスティバル」を通して近隣地区及び全国的に知名度を上げる	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	-		
			■メディアの取材に対する積極的対応	実施	未実施	-	問い合わせ1件(完全クローズド状態の撮影依頼のため未実施)	
	4	◆外国の方向けの情報発信方法の検討	■英語版チラシ・パンフレットの設置	実施	未実施	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	
			■英語で受講できる自由教室受講の案内	実施	未実施	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	

令和3年 横浜市陶芸センター 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		令和3年度計画		実施状況			評価	
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 作陶活動のための施設の提供	◆適切な施設開館及び施設の貸出	□開館日数356日、休館日9日 (休館日:清掃・空調機点検2日、電気点検1日、年末年始6日)	開館日数356日 休館日9日	開館日数356日 休館日9日	5/13,10/15,10/18施設点検日(3日間) 年末年始休館(6日間)	【成果】 ・計画通りの開館を実施しました。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のための貸室利用停止について、ホームページ、電話連絡にて周知し、それに伴うトラブルを回避しました。	【評価できる点】 ・貸室については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための利用停止の際に、丁寧に利用者へ連絡調整を行ったことを評価します。年間実績としては目標に近い数値を残すことができています。 ・事業の実施にあたってはアンケートを行い、丁寧に結果を分析し、施設運営に反映していることが伺えます。 【改善が必要と考えられる点】 ・提案書の内容どおりに事務職員が配置されていない状況が続いています。組織体制は、指定管理者選定の際の提案内容にかかる根幹的な内容であり、収支計画にも影響する内容です。また、利用者サービスへの低下が懸念されます。安定的な施設運営のための職員体制に引き続き取り組んでください。 ・引き続きアンケート結果から、利用者のニーズを汲み取りより良い施設運営に繋げることを期待します。	
		■開館時間9時～17時 ■開館時間・休館日の周知(館内掲示・ホームページ)	実施	実施	-			
	◆公園条例に基づいた利用料金の徴収	適切な利用料金の徴収 ■陶芸成形室半日500円	実施	実施	-	【課題】 ・9月、10月の新型コロナウイルス感染症拡大防止のための貸室利用停止(20日間)により貸室利用者が減少し、目標を下回る実績になりました。新規利用者が利用し易い作陶環境や周知を検討します。		
		■焼成料100gまでごとに 100円	実施	実施	-			
	◆各種講座・新規利用者・貸室の利用率増加のための工夫	□貸室稼働率(337日)	100%	94%	B	目標337日、利用日317日、稼働率94%。(新型コロナウイルスによる利用停止20日間)		
		□貸室目標利用者数	5,392人	4,162人	C	新型コロナウイルスによる利用停止20日間(9/24～10/24)の影響による利用者数減少		
□貸室目標利用料収入(焼成料含む)		4,200,000円	3,693,650円	C	新型コロナウイルスによる利用停止20日間(9/24～10/24)の影響による利用料収入減少			
■新規・長期利用者が継続して作陶を楽しめるように、釉薬、粘土、焼成方法など工夫する。		実施	実施	-	期間限定粘土の販売(萩土、信楽透光土)			
2 利用者ニーズの把握及び利用者サービスの向上、アイデアノウハウの一層の活用	◆アンケートを活用した利用者サービス向上と利用促進	■利用者アンケートを実施	実施	実施	-	【成果】 ・開催した自主事業(一体験教室・親子陶芸教室・指導者研修講座・自由作陶教室)において講座終了ごとにアンケート実施し、講座内容・建物(設備)・スタッフにおいて満足度90%以上(アンケート回収率92%)の結果が得られました。 ・利用者アンケートからの意見を取り入れ、次回の講座内容に反映させ、修正を行いました。		
		■アンケートからの改善の実施	実施	実施	-		一日陶芸体験教室、指導者研修講座、親子陶芸教室、自由作陶教室、第2自由作陶教室、貸室にて実施 粘土、釉薬、技法の改善	
	◆利用者への配慮をしながら、可能な限り、施設見学を受け入れ。	■利用者への支障のない「一般見学者の団体」の受入	実施	実施	-	3団体の受け入れ		
		■穴窯講座への団体見学の受入	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	-			
	◆(指定管理期間において)施設スペースの有効利用方法等の検討	■講座教室内の整理整頓と陶芸材料の計画仕入	実施	実施	-	体験教室、自由作陶教室、講座室、貸室、講師部屋のレイアウト変更、釉薬ストック整理、期間限定粘土の計画仕入れ		
		■ロッカールームスペースの活用の検討	実施	実施	-	整理整頓によるスペース確保、防災グッズの収納場所確保		
■不良在庫等の廃棄による収納スペースの確保		実施	実施	-	粘土・釉薬の計画仕入れによる不良在庫ロス、スペースの確保			
■防災用品保管スペース拡張の検討	実施	実施	-	整理整頓によるスペース確保				
3 組織的な施設運営	◆適切な運営組織体制と人材の配置(毎日2名以上の勤務体制) (センター長1人、所長1人、社員2人、事務員2人、講師9人、貸室アドバイザー6人、助手1人)	■センター長1人、所長1人、副所長1名 事務員4人、講師10人、 貸室アドバイザー、助手6人	実施	実施	-	【成果】 ・人員減少に伴い、利用者サービスの低下にならないよう配慮しながら、業務の効率化を進めました。 ・スタッフ間で連絡調整、情報共有を徹底し、円滑な運営を進めました。 【課題】 ・コロナ終息に向けて、講座数増加によるスタッフの適切な配置(増員)を検討します。		
		■センター長月3日、所長、副所長週5日 事務員、講師、貸室アドバイザー、助手をローテーション勤務	実施	実施	-		コロナの影響により、令和3年1月から事務員の急な退職による人員減少 事務員募集の案内を出し、新規採用も行っているが、補充できていない状態 令和3年1月以降は、事務員不足を所長・副所長で対応しているため、当初の計画より勤務日数が増加 講師等については計画通りのローテーション勤務	
	■職務分擔表により効率的な業務遂行	実施	実施	-	諸事情に対応しながら、早めの計画と効率的な業務遂行を実施			
4 個人情報保護等、本市の重要施策を踏まえた取組	◆個人情報保護・情報公開、人権尊重、環境への配慮、市内中小企業優先発注等の取組の実施	■法令、条例及び規則を遵守し、利用者の個人情報の取扱いを適正に行い、事故の内容に努める	実施	実施	-	【成果】 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策「体調確認書」の個人情報漏洩防止、管理簿作成し管理を徹底しました。 【課題】 ・特筆すべき事項なし		
		■マイナンバー利用者の個人情報漏えい防止のため、組織的・人的・物理的・技術的安全管理処置を講じる	実施	実施	-		個人情報の徹底管理 シミュレーションにおいて施錠管理とパスワードでの情報管理	
		■横浜市の障害者差別解消法の指針に従い差別解消を推進する	実施	実施	-			
		■情報公開規程に則り、情報開示請求等の適切な対応	実施	実施	-		情報開示請求0件	
		□人権に関する職員研修年1回	1回/年	1回/年	B			
		■管理・運営上の近隣への迷惑行為への十分な留意、対策の実施	実施	実施	-		公園内の安全速度通行、公園業務通行車両への通行証の配布と安全走行の指示	
■横浜市中企業への優先発注	実施	実施	-	電気設備、清掃業務				

令和3年 横浜市陶芸センター 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		令和3年度計画		実施状況		評価		
Ⅲ維持管理目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 施設及び設備の維持保全及び管理、公園管理	◆施設の安全・安心・快適環境維持と長寿命化対応の実施	□清掃業者委託による清掃	毎日	毎日	すべての開館日の清掃実施	【成果】 ・日常点検・清掃、定期点検による施設管理実施しました。 ・日常点検による施設設備、陶芸道具類の小メメなメンテナンスを実施し、安全で快適な作陶環境を維持できました。 ・外登り窯・施設周辺の草刈、雪かき、屋根雨樋松葉除去による建物美観維持に努めました。 【課題】 ・大きな不具合はありませんが、施設全体の経年劣化が進んでいます。外の登り窯の柵・屋根の錆、蛍光管交換作業、高額な修繕費が課題です。	【評価できる点】 ・日常清掃や定期点検等が予定どおり適切に実施されていることを確認しました。また、日常的に小破修繕など施設のメンテナンスを実施されていることが伺えます。 ・施設内において、消毒液や遮蔽板を設置するなど新型コロナウイルス感染症対策を十分に実施しました。 ・ゴミ投機による被害がありましたが、市と速やかな連携と対応が行われました。 【更なる取組を期待する点】 ・引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底するとともに、老朽化した施設の小破修繕を適切に実施し、施設の不具合箇所を本市と共有するようお願いいたします。	
		□定期清掃	2回/年	2回/年				
		■管理標準チェックリストの記録	実施	実施	-			毎日の管理標準チェックリストの記録
		■施設設備の日常点検	実施	実施	-			毎日の見回り点検の実施
		■早めの自前小破修繕による高額修繕費支出回避	実施	実施	-			電動ロクロ、電気窯、灯油窯、換気線、コンプレッサー、自動乳鉢、水道栓、柵の修理、釉掛床塗装
		□空調機器定期保守点検	2回/年	2回/年	B			年2回の定期点検実施
	◆保守点検、備品管理、環境維持の実施	■給排水設備点検	随時実施	随時実施	-			毎日の点検
		□電気設備点検	毎月実施	毎月実施	B			毎月の電気施設簡易点検と自主簡易点検、年1回の定期点検実施
		□ガス設備点検	毎月実施	毎月実施	B			毎月の簡易点検
		□消防設備点検	2回/年	2回/年	B			年2回の非常警報設備、非常避難路、消火器点検
		□窯業機械の機能点検	毎月	毎月	B			毎月の窯業機械機能点検の実施
		□窯業機械の保守点検	1回/年	1回/年	B			
◆公園の管理区域内の環境維持、公園管理者との連絡調整	■下洗い箱を設け、粘土、釉薬が直接流れないように管理	実施	実施	-	下洗い箱の設置			
	□排水溝、樹の掃除・汚泥量の記録	2回/年	3回/年	A	年3回の排水溝からの汚泥排出と汚泥量の記録			
	■建物の美観維持のため屋根の松葉清掃や登り窯周辺の草刈	実施	実施	-	年11回の登り窯周辺の草刈、年4回の屋根雨樋松葉掃除、雪かき1回			
2 小破修繕の着実な実行	◆小破修繕の取組	■見回り点検により、早めの修繕を行い、高額修繕に至らない様、適切な維持管理	実施	実施	-	毎日の見回り点検		
		■修繕部品の直接購入による修繕コスト削減	実施	実施	-	水道栓、粘土保管庫、木製看板、電動ロクロ棚修理等、部品取り寄せ修繕19件		
3 事故予防及び緊急時の対応	◆事故防止体制・防犯、緊急時の対応・感染症対策等衛生管理の実施	■緊急連絡網の整備と迅速な市への報告	実施	実施	-	ゴミ投棄被害報告		
		□AED操作研修	2回/年	2回/年	B	年2回の防災訓練時にAED操作説明		
		■警備業務一覧を職員全体で認識共有	実施	実施	-	退館時のWチェック体制の実施		
		■日常の見回りによる危険箇所の発見	実施	実施	-			
		■消毒石鹸、アルコールでの感染症対策と嘔吐物処理のマニュアル化と全職員で共有	実施	実施	-	・感染症対策の陶芸道具類、施設内消毒ガイドライン作成 ・消毒作業1日2回 ・飛沫防止アクリル板、非接触型赤外線温度計設置		
		■蚊の発生源の除去と野鳥の死骸の報告	実施	実施	-			
		■警備保障会社による24時間警備(機械警備)	実施	実施	-	総合警備保障(株)による24時間機械警備、監視カメラ4台設置		
4 防災に対する取組	◆日常の取組、危機管理マニュアルの整備、防火・防災の取組、災害備蓄等の実施	■災害対策マニュアルの整備	実施	実施	-			
		□利用者も含めた防災避難訓練	2回/年	2回/年	B	7月、1月に実施		
		■焼成についてスタッフの安全教育、防火管理の徹底	実施	実施	-	焼成管理、防災管理の徹底		
		□防災用品を準備、備蓄、更新をする	2回/年	2回/年	B	7月、8月に実施		
5 その他管理に関する事項	◆廃棄物の抑制と適切な処理	■使用済み粘土、釉薬を毎日適切に管理する	実施	実施	-	毎日の管理		
		■産業廃棄物の管理状況をチェックし、横浜市ルート回収にて適正に廃棄する	実施	実施	-	毎月の産廃のチェックの実施とルート回収による廃棄		

令和3年 横浜市陶芸センター 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		令和3年度計画		実施状況		評価	
IV 収支	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 適切な収支構造及び収支バランス	◆適切な収支構造及び収支バランス	■収益の改善と固定経費の抑制努力	実施	実施	- 収益改善の体験講座実施	【成果】 ・体験講座等(受講料値上げ)、自主事業において予算を上回ることができました。また、在庫管理と計画仕入れを実施し、自前修繕・広告宣伝費削減、支出見直しに取り組みました。 【課題】 ・今後も収支の見直しと改善を進めます。	【評価できる点】 ・さまざまな工夫をこらして経費削減に努めたことが伺えます。 【更なる取組を期待する点】 ・受講料の値上げによる収益面の効果を長期的に維持するためには、利用者の満足度向上につながる取組を実施する必要がありますので、継続的に検討を行ってください。
		■陶芸材料の在庫管理を徹底し、計画仕入れを行う	実施	実施	- 毎月の計画仕入れと在庫管理の徹底		
		■粘土の予約販売を実施し、不良在庫を置かない	実施	実施	- 不良在庫ロス		
		■突然の高額修繕に備えた、日常点検による劣化箇所の把握	実施	実施	- 日常点検による電気炉錆落とし、ヒーター線交換修理、空調機フィルター清掃、自動乳鉢修理実施		
		■利用増加が見込める新規講座の企画	実施	実施	- 期間限定粘土の導入(利用者数130名)		
		■四半期末での収支の予測	実施	実施	- 次年度自由作陶教室受講料、自主事業料(オプション使用料)の見直し		
2 指定管理料のみに依存しない収入構造の検討	◆指定管理料のみに依存しない収入確保の取組	■自主事業講座の受講率を高め、増収を図る	実施	実施	- アンケート調査により講座内容、教室レイアウトの改良	【成果】 ・計画通り講座内容の見直しを実施、収益確保に取り組みました。 【課題】 ・今後もアンケート調査、意見の聞き取りにより講座内容の充実を進めます。	
		■興味を喚起する新規講座を企画検討し、利用料増収を図る	実施	実施	- 様々な技法、テーマの体験講座を実施		
		■期間限定の新規釉薬、粘土を導入し、利用料増収を図る。	実施	実施	- 収入の見込める粘土・釉薬期間限定販売		
3 経費削減及び効率的運営努力	◆経費削減等効果的運営の取組	■消耗品、事務用品の節約による事務経費削減、利用者からの古新聞・古布の再利用	実施	実施	- 利用者より消毒剤、新聞紙、雑巾、花の寄贈による経費削減	【成果】 ・利用者(陶芸図書、花、雑巾、紙袋、新聞紙、消毒剤等の寄贈)からの協力を得ながら、施設運営を行いました。 ・灯油の直接買い入れによって、年間80,000円の削減ができました。 【課題】 ・引き続き、経費削減の努力を進めます。 ・施設老朽化に伴う修繕費の増加対策を検討します。	
		■不用になった陶芸関係書籍の寄贈を積極的に受け入れる	実施	実施	- 利用者より図書の寄贈		
		■材料の直接仕入れによる輸送コスト削減	実施	実施	- 粘土・釉薬輸送コスト削減		
		■液化燃料(灯油)の直接購入による経費削減	実施	実施	- 年間80,000円の削減		
		■自前修繕による修繕経費の抑制	実施	実施	- 職員の自前修繕による経費削減		
		■窯業機械の毎月の機能点検により高額修繕に備える	実施	実施	- 窯業機械修理、点検		

令和3年 横浜市陶芸センター 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		令和3年度計画	実施状況	評価	
総括	特記(提案事項要旨)	達成指標	説明	自己評価	行政評価
1				<p>令和3年度の事業運営は昨年度から続く新型コロナウイルス感染症対応の経験を活かしながら、様々な企画の講座を実施し、多くの自主事業において目標を達成することができました。総利用者数は昨年度実績を上回る12,065人の利用がありました。</p> <p>初めての方対象の一日陶芸体験教室については、年間を通して96%と高い利用率となりました。早めの周知と講座内容の充実(毎回テーマ・技法を工夫)が、再受講に繋がりました。夏休み親子陶芸教室、指導者研修講座は陶芸資料作成・配布を行い、次世代育成の取り組みを推進しました。また、近隣の陶芸教室、陶芸設備のある市内公共施設からの陶芸に関する様々な質問・相談に随時対応しました。</p> <p>施設運営についてはアンケート調査や利用者・スタッフの意見を取り入れ、改善点を毎回分析し、修正した内容をスタッフ間で情報共有しました。</p> <p>施設設備の日常点検・定期点検を確実に実施し、早めの自前修繕による安全で快適な作陶環境維持に努めました。</p> <p>自主事業アンケート調査(講座内容・施設設備・スタッフ対応)全ての項目において90%以上(回収率92%)となりました。今後もこれまで取組みを活かしながら尽力していきたいと思っております。</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた令和2年度と比較して大きく回復した一年だったと捉えています。感染症対策を実施しながら体験講座や貸館事業は通常どおり開催したことを高く評価する一方で、陶芸センターの特色であるアマチュア陶芸展等の事業がここ数年開催できていない状況にあります。令和4年度以降には、以前のように多彩なプログラムが実施されることを期待しています。</p> <p>・組織体制は指定管理者選定の際の提案内容にかかる根幹的な内容ですが、提案書の内容どおりに事務職員が配置されていない状況が続いています。収支計画にも影響する内容であり、利用者サービスへの低下が懸念されます。安定的な施設運営のための職員体制に引き続き取り組んでください。</p> <p>・公共施設として設置されている陶芸センターの意義について常に意識し、地域の陶芸教室とは異なる性質の取組の重要性についても理解し、今後の施設運営に取り組んでください。</p>